

科目名称	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）（中・高）【旧：教育方法論（中・高）】
授業コード	BN211
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	平山 靖
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	どのような授業をすれば上手く教えられるのでしょうか？どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのでしょうか？本科目では、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学びます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	16年間、千葉県の子立小学校で学級担任をしてきました。自治的な学級経営、学習者中心の授業実践等の具体的な経験をもとに、児童・生徒と共に創る授業の楽しさ、実践に役立つ指導法について、能動的な学習を多く取り入れながら講義します。全員に模擬授業に挑戦してもらいます。
到達目標	【教職センターが定めるカリキュラムポリシー】 (a) 教育者に要求される子どもの発達や教育に関する基礎知識を修得すること目的とする（教育の基礎理論に関する科目） をうけて、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、情報機器や教材の活用に関する基礎的な知識・技能を模擬授業などを通して身に付け、活用することができる。
計画・内容	第1回 オリエンテーション これからの子どもたちに育みたい資質・能力 第2回 授業づくりのプロセスと学習評価のデザイン 第3回 授業を支える指導技術と学びを引き出す指導技術・教科書活用の技術 第4回 学習指導案の作成(1) 指導案の書き方 児童生徒観・教材観・指導観・指導の展開 第5回 学習指導案の作成(2) 学習目標の設定・深い学びを導く教材研究 第6回 学習指導案の作成(3) 主体的・対話的な学習過程・学びが見える評価方法と学習履歴データの活用 第7回 授業の魅力を高める教材活用の技術とICTデジタルコンテンツの活用 第8回 教科横断で情報活用能力を育てる（情報活用能力・情報モラル・プログラミング教育の関係） 第9回 教授・学習の理論:教育方法の基礎理論(伝達主義・構成主義)とそれにもとづく実践 第10回 模擬授業準備・指導案検討・模擬授業の評価観点(単元全体による知識・技能の授業) 第11回 模擬授業1 前半グループによる模擬授業の実施と改善(単元全体による知識・技能の授業)・教師の学びと省察 第12回 模擬授業2 後半グループによる模擬授業の実施と改善(単元全体による知識・技能の授業)・教師の学びと省察 第13回 模擬授業準備・指導案検討・模擬授業の評価観点単元全体による思考・判断・表現の授業) 第14回 模擬授業3 前半グループによる模擬授業の実施と改善(単元全体による思考・判断・表現の授業)・総括 第15回 模擬授業4 後半グループによる模擬授業の実施と改善(単元全体による思考・判断・表現の授業)・総括
授業の進め方	対面授業で実施します。講義や模擬授業の中に、さまざまなアクティブラーニングを取り入れます。パワーポイントによるプレゼンテーションを用意します。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングとして実践が求められる思考ツールやリジグソー法などを用いて実際に学習を行います。小グループでの議論や模擬授業を取り入れます。

授業時間外の学修	計60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、事前課題の予習や参考書の読み、指導案の作成、模擬授業に向けての準備などを行うこと。
教科書・参考書	<p>【教科書】 稲垣忠編「教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び」北大路書房</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 東山書房 ・高等学校学習指導要領(平成30年3月告示) 東山書房 ・解説 免許状を取得する教科編の学習指導要領
成績評価方法と基準	<p>評価項目 授業中の課題(50%) 模擬授業等への取り組み(30%) 受講姿勢・活動への参加(20%)</p> <p>ルーブリック</p> <p>【授業中の課題】(50%)学習指導案・単元指導計画などの課題を幅広い知識・技能をもとに作成することができることを評価基準とします。</p> <p>【模擬授業への取り組み】(30%)適切な指導法を取り入れ、情報機器や教材を活用できることを評価基準とします。</p> <p>【受講姿勢・活動への参加】(20%)様々な場面指導の課題について解決策を提案できることを評価基準とします。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業課題に対しては、その場で講評します。</p> <p>アクティブラーニングの体験や模擬授業では、それぞれに簡潔なコメントをします。</p>
オフィスアワー	Campussquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>1授業の進め方 5回程度 オンライン授業を実施する。Zoomの利用。5回程度 オンデマンド型での配信とする。 5回程度 課題レポートの提出を求める。</p> <p>2成績評価方法と基準 授業への参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とする。提出課題(学習指導案など)の成績(100%)で評価する。</p>